

亜麻採種のための播種期について

吉岡昌二郎\*・宮越秀一\*

YOSIOKA, S. and MIYAGOE, H.  
On the Seeding date to Pick the Flax seeds.

はしがき 南九州地方における亜麻栽培用種子は北海道より取寄せられていて播種時期に間にあわないことがあるので、南九州において、採種の可能性及び採

\*九州農業試験場

種のための播種期を知るために本試験を行い結論を得たので報告する。

試験方法 サギノー2号を供試品種とし、1956年2月から1957年1月迄、また1957年10月から1958年

第 1 表 生育並びに収穫物調査

年次	調査項目 播種月日	発芽始 月.日	発芽 整否	着蕾 月.日	収穫 月.日	全茎長 cm	分枝数 本	1茎当 蒴数 個	乾茎重 10a当 kg	千粒重 gm	種子量 10a当 gm	発芽率 %
1956 年	2. 20	2. 28	やや整	5. 5	7. 13	115.6	3.9	13.0	231.8	3.33	120.96	—
	3. 20	3. 26	整	5. 15	7. 18	116.9	3.6	8.6	264.9	3.31	72.72	—
	4. 20	4. 24	整	6. 8	8. 9	98.6	2.6	5.2	206.4	2.89	28.80	—
	5. 28	5. 31	やや整	7. 3	8. 29	91.0	3.0	2.6	139.7	2.85	25.20	—
	8. 20	8. 24	やや整	10. 9	1. 5	85.0	2.5	0.0	19.2	—	0.00	—
	9. 20	9. 23	整	4. 3	6. 20	96.2	—	—	210.0	4.46	17.64	—
	10. 20	10. 24	やや整	4. 5	6. 20	74.9	—	—	128.8	4.49	18.00	—
1957 1958 年	10. 17	10. 22	やや整	4. 2	6. 25	94.3	5.3	9.8	137.3	3.53	36.76	92
	11. 21	11. 28	整	4. 7	6. 25	94.4	4.5	6.4	314.3	3.72	79.19	94
	12. 20	1. 2	やや整	4. 25	6. 25	82.1	4.4	5.4	103.5	3.75	67.41	96
	1. 20	2. 4	やや整	5. 2	6. 25	84.2	4.6	7.4	156.4	3.73	60.00	94
	2. 20	2. 27	整	5. 6	6. 28	89.0	5.3	8.3	110.6	3.27	38.33	93
	3. 20	3. 26	やや整	5. 24	7. 12	71.6	3.1	4.8	93.4	3.49	30.19	92
	4. 19	4. 24	やや整	6. 5	7. 19	61.9	2.9	4.5	67.9	2.84	15.28	86
	5. 20	5. 23	やや整	7. 2	8. 8	63.5	3.4	5.7	36.0	2.52	5.10	57

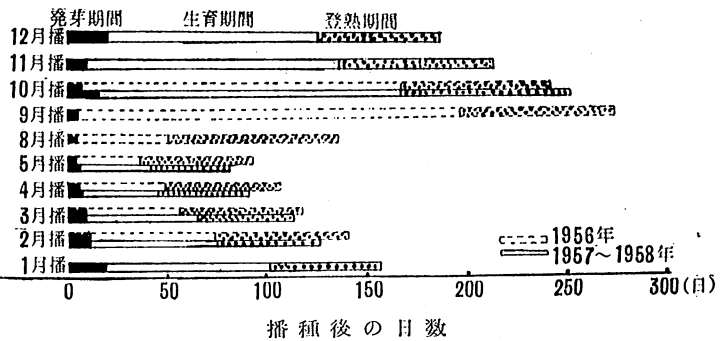
注. 1957年12月, 1958年1,5月は反復なし

迄毎月播種を行つた。播種量、施肥量は標準耕種法による。特に1957年12月20日より1958年2月20日まで竹簀にて霜覆いを行つた。

**試験結果並びに考察** 1956年2月より毎月播種を行つたが病害、早魃、霜害等のため減茎、枯死し、生育及び採種できた播月は第1表の如く半年の播種月のみ採取でき他の播月は採種できなかつた。また1957年10月以降の播月は降霜期間に霜覆いを行つたので枯死する個体が少なく全播月共採種できた。

種子収量は2月播区が多く、次いで3月播区と早播したほど生育共によく、春期播種から秋期播種と順次減収し、採種できなかつた他の播月は6月播区が立枯病、7月播区は早魃、12月～1月播区は霜害等により枯死し生育せず、また8月播区は生育後期の低温のためか結実せず採種できなかつた。また1957年10月播以降の冬期播種は霜覆いを行つたので枯死する個体が少なく、その上11, 12月は例年より高温に気温が経過したので、極めて順調な生育であつたが3月下旬の強晩霜のために2月播区は発芽直後であり被害が大きく4割程度の減茎となつたが、全播種月共採種でき、

第 1 図 亜麻の生育期間



霜覆い期間の11月, 12月播区が多く採種できた。しかし霜覆いを行わなかつた各播月は1956年と同様な傾向となり、2月～3月に播種し6月下旬～7月上旬に採種したものが生育、収量共によい。また梅雨期の6月播、早魃期の7月播は発芽不良のため播種は困難である。秋及び冬期播種は降霜期間に霜覆いすれば寒害を受けて枯死する個体も少なく、収量も劣らないが生育期間及び労力を要し実用的でない。

各播月による亜麻の生育期間を見ると第1図の如く春季播から夏季播にかけては非常に生育が促進され、秋期播から冬期播は生育伸長期が低温となるため、生育が抑制され長期間の生育日数を要する。